

製品名: RYBP (11I9) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe17453**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50,IP 1:50-1:100
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	RYBP
別名	AAP1; APAP1; cb337; DEDAF; RYBP; rybpa; YEA1;
遺伝子 ID	23429.0
SwissProt ID	Q8N488
免疫原	ヒト RYBP の合成ペプチド

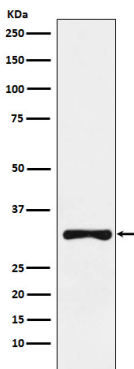
背景

E4TF1 の転写活性の抑制因子として転写の調節に関与している可能性がある。腫瘍細胞株ではアポトーシスを誘導する可能性がある。ポリコムグループ (PcG) 多タンパク質 PRC1 様複合体の構成要素であり、発生過程を通して Hox 遺伝子を含む多くの遺伝子の転写抑制状態を維持するために必要な複合体クラスである。PcG PRC1 様複合体は、クロマチンリモデリングとヒストンの修飾を介して作用し、ヒストン H2A 「Lys-119」のモノユビキチン化を媒介し、クロマチンの発現能を遺伝的に変化させる (PubMed:25519132)。X染色体上のヒストン H2A 「Lys-119」のモノユビキチン化を媒介する PRC1 様複合体の構成要素であり、XX女性のX染色体の1つのコピーの正常なサイレンシングに必要である。複合体を標的部位にリクルートすることで、ヒストン H2A の Lys-119 のユビキチン化を促進する可能性がある (類似性による)。TP53 のユビキチン化とそれに続く分解を阻害することで、TP53 標的遺伝子の転写を制御する役割を果たす (PubMed:19098711)。また、FANK1 などの他のタンパク質のユビキチン化を介したプロテアソーム分解を制御し、アポトーシスを制御する可能性がある (PubMed:14765135、PubMed:27060496)。E4TF1 の転写活性の抑制因子として転写の制御に関与している可能性がある (PubMed:11953439)。DNA に結合する可能性がある (類似性による)。SRRM3 のダウンレギュレーションにより、乳がんにおける腫瘍の増殖と転移の抑制に役割を果たす可能性がある (PubMed:27748911)。

研究分野

-

画像データ



SW480 細胞溶解物中の RYBP 発現のウェスタン プロット分析。